

事業面からの評価の在り方について

令和5年2月7日

**総務省国際戦略局
技術政策課**

新事業の実施体制（イメージ）

- 事業面からの適切な評価の在り方の検討や、個別プロジェクトの事業面からのモニタリング（進捗確認・助言等）を実施する体制を構築

情報通信審議会 革新的情報通信技術プロジェクトWG

（情報通信審議会 情報通信技術分科会 技術戦略委員会の下に設置）

<主な役割>

- ・ 戦略的プログラムに係る事業面からの適切な評価の在り方の検討
- （ ・ 戦略的プログラムに係る採択評価にWG構成員が参画（事業面の審査） ）
- ・ 個別のプロジェクトについての事業面からの進捗確認・助言等（モニタリング）

<WG構成員>

- 森川 博之 東京大学大学院 工学系研究科 教授【主任】
- 長内 厚 早稲田大学大学院 経営管理研究科 教授
- 木村 亮示 ポストコンサルティンググループ マネージング・ディレクター／シニアパートナー
- 杉浦 孝明 株式会社三菱総合研究所 営業本部 インダストリー・マネージャー（通信・メディア）
- 立本 博文 筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授
- 平田 貞代 芝浦工業大学大学院 理工学研究科 准教授／
東北大学大学院 工学研究科 技術社会システム専攻 特任准教授

総務省

<主な役割>

- ・ NICT中長期目標の変更指示、NICT中長期計画の変更認可
- ・ 基金運用方針の作成・公表、審議会（WG）の事務局運営
- ・ 電波有効利用の観点からの確認 等

NICT

<主な役割>

- ・ 新基金の造成、運用・管理
- ・ プロジェクトごとの研究開発計画の公表
- ・ プロジェクトの公募・審査・採択、評価委員会の運営
- ・ プロジェクト実施者との契約/交付・支払
- ・ プロジェクトの成果まとめ・公表 等

<新基金の評価委員会>

【主に技術面から審査】

- 安藤 真 東京工業大学 名誉教授 ほか13名の委員
+プロジェクトごとの専門委員(計60名)

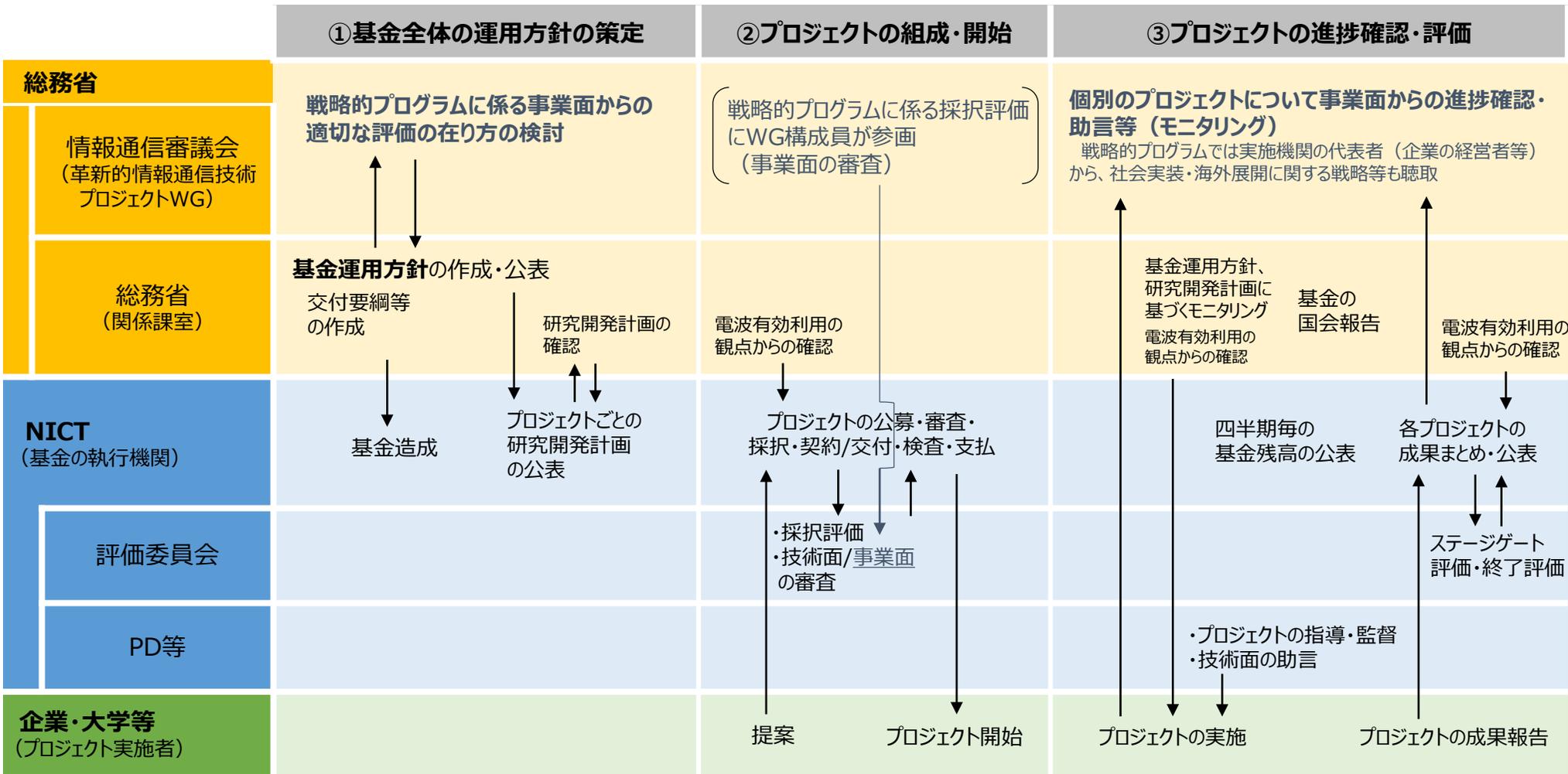
<戦略的プロジェクト>

【事業面から審査】
上記WG構成員

+



新事業の評価・モニタリング等の流れ（イメージ）



1. プロジェクトの採択評価における事業面からの評価項目等
2. プロジェクトの評価及び採択後のモニタリングに当たって留意すべき事項
3. その他

検討結果を
「WGとりまとめ（仮）」
として整理・公表

「WGとりまとめ（仮）」の内容について、

- 総務省の基金運用方針
- NICTのプロジェクト公募要領
- 評価やモニタリングの運用

等に適宜反映する予定

● 2月7日 第1回 革新的情報通信技術プロジェクトWG <今回>

- ・ 事業面からの評価の在り方について
- (1) プロジェクトの採択評価における事業面からの評価項目等について（事務局説明、木村構成員・杉浦構成員発表、討議）
- (2) プロジェクトの評価及び採択後のモニタリングに当たって留意すべき事項について（自由討議）

● 2月中下旬 第2回 革新的情報通信技術プロジェクトWG

- ・ WGとりまとめ案骨子について

<総務省・NICT>

左記を踏まえ
基金運用方針案を
作成

● 3月上中旬 第3回 革新的情報通信技術プロジェクトWG

- ・ WGとりまとめについて

・基金運用方針
・プロジェクト公募要領
・評価やモニタリングの運用
等に適宜反映予定

- 事業面からの適切な評価項目について、どのように考えるか。

＜事業面からの評価項目のイメージ＞

① 政策目標（重点技術分野等）との整合性

② 経営コミットメント

経営者自身の関与、経営戦略への位置づけ、事業推進体制の確保を適切に行えているか

③ 市場機会の認識

社会・経済・政策・技術等の環境変化も踏まえながらグローバルでのターゲット市場の予測・分析を行い、市場機会を適切に認識できているか

④ 社会実装・海外展開に向けた取組

研究開発段階から、事業化への道筋、市場・顧客の課題やニーズを具体的に想定して計画がみられるか、その達成手段として知財の取得・活用や標準化の方策が有効・合理的なものになっているか

⑤ ビジネスモデル

社会や顧客のニーズに対応し、実現・継続の合理性（商流や他商品との組み合わせ等）や他社に対する優位性があるか

⑥ 事業化計画

研究開発成果の社会実装からその後の競争性の維持・事業拡大に至るまでの資金計画、投資及び投資回収の計画・想定が妥当か

- 上記項目に基づき評価を行うに当たって、提案者から提出を求めるべき事項は何か。

<論点（例）>

- ① 研究開発実施者における柔軟性と、国費を充てる説明責任との間のバランスについてどう考えるべきか。
- ② 実際の事業は必ずしも計画通りにならない、場合によっては失敗する可能性もある中で、評価及びモニタリングに当たってどのようなことに留意すべきか。
- ③ 基金事業の成果最大化に向けて、総務省及びNICTに求められることは何か。
- ④ 基金事業の成果最大化に向けて、民間企業に求められることは何か。
- ⑤ その他、考慮すべきことはあるか。